



卷頭言

「彼女はたまたま女性でした」～神は人を…男と女に創造された～創世記1章27節

板橋教会、東京教会牧師：後藤 直紀

トランプさんが大統領として選ばれましたね。昨年の選挙戦で、それまでの大統領として期待されていたヒラリーさんは残念ながら負けてしまいましたが、ちょうど大統領選で二人が争っていた時、オバマ大統領夫人のミシェルさんがヒラリーさんの応援のためにニューハンプシャー州を訪れて演説をしたその言葉が多く支持者たちの心を揺り動かしました。教育の大切さ、たゆまず努力することの重要性、そして人として誰もが持つ尊厳を傷つけるような言動は許されるものではないことを強く主張し、特に「女性であること」についてのミシェルさんの言葉に、わたし自身深く感動させられました。

「言わせてください。わたしが今日ここにいるのは、心の底から、ヒラリー・クリントンが大統領になるべきだと信じるからです。ヒラリーがこの仕事にうってつけの人物だということを、彼女の人格や、この選挙戦だけでなく彼女の生涯から見てきました。わたしたちが若いひとたちに教えようとしているたくさんのことを、ヒラリーは実現してきました。若いひとたちに、こう言いますよね。「学校で頑張って勉強して、良い教育を受けなさい」と。その教育を使って、他の人たちを助けなさいと。ヒラリーはまさにそれを大学の学位やロースクールの学位を使って実践してきました。ハンディキャップを持ったこどもたちの弁護をし、大統領夫人としてこどもたちの医療ケアのために戦い、上院議員としてはこどもたちのための医療保険制度改革に努めました。…(中略)…

ヒラリーは弁護士として、法律学教授として、アーカンソー州知事夫人として、合衆国大統領夫人として、合衆国上院議員として、そして国務長官として働いてきました。すべての役割を立派に務め、経験を豊かにし、わたしたちの知るどんな候補者よりも大統領という仕事をつぶさに見てきました。バラクよりも、ビルよりも、です。そして、彼女はたまたま、女性でした。」

—参考URL<http://watanabe-yo.sorairoan.com/?eid=30>—

「女性として彼女はこんなに素晴らしいのです」ではなく「彼女はたまたま女性でした」という言い方から、ミシェルさんが男女を本当に対等に考えているのだということを見て取れます。「だから女性はすごいでしょう」ではなく「この人は立派な人ですが、たまたまその人は女性だったのです」と。

はじめに、神は男か女かのどちらかを最初に造らなければいけなかった。そして神は「たまたま」男を先に造られたと言えるのではないかでしょうか？

「あのとき二人は、たまたまそこにいたから知り合った」とか「たまたま人に言われて、それをやったらうまくいった」、「生まれた赤ちゃんはたまたま女の子だった」ということを、わたしたちも経験します。その偶然とも思える「たまたま」が、じつは神の大きな御計画の一部だった…ということを後から知られるようになります。それが、歴史の物語る真実なのだと思います。

こんなに素晴らしい演説をするミシェルさんですから、4年後あるいは8年後には大統領に選ばれているかも知れませんね。彼女はたまたま女性ですが。



…うちの犬も女の子でした。

第4回“女性の集い”から ~介護される側の実際と意義~

10月13日(土)東京教会に於いて第4回女性の集いが開催されました。当日は好天に恵まれ、教会バザーや学校行事の合間に縫つて62名の方が来会されました。

第一部開会礼拝では後藤直紀牧師の祈りと讃美歌「うつわの歌」:ヨハネの手紙Ⅰ4章16節「わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。」からお話をいただきました。わたしたちが与えられているこの“土のうつわ”に感謝し愛と喜びを持って他者と繋がっていかれますようにと祈りを新たにしました。

昼食休憩では限られた時間ながら、東京女性会の茶菓と

コーヒーのおもてなしをいただきてリラプレカリアご有志のハープと祈りの歌声に心が解きほぐされ感謝でした。

第二部は「介護される側の意義と実際」について高橋睦東京老人ホーム施設統括長に講演していただきました。私たちと介護は極めて現実的な課題の一つと言えます。前回第3回“会長会&女性の集い”では講演後の質疑応答も熱を帯びて女性のみならず、男性や行政、地域も含めた社会全体の取り組みの必要を痛感しました。高橋施設長のプロフェッショナルな見地ならではの貴重なお話と伊藤早奈牧師のビデオレター・文書から滲み出るお人柄に触れて、参加者は“ケアする・されることとは?”その意味の大切さと実践の充実について考えさせられました。

女性の集いに参加して



津田沼教会 * 小澤 恵子

スポーツクラブのプール、子供達が真剣に泳ぎを習っています。子供は外観だけ見ても何歳くらいか見分けられますね。子供達を見つつ、お喋りしながら、水中ウォーキングに励む私達。腰や膝が曲がった方も、水中では皆スイスイ。年を重ねると一人一人に大きな差が見られます。外観だけでは年齢は判りません。老いるという事はまさに個性と今までの人生の集大成かもしれません。

東教区女性会は4月に「介護する側の実際と意義」という題で話し合う機会を与えられました。今回は「介護される側の実際と意義」施設の中で介護に携わる方のお話が中心でした。介護される方とその家族に関わる立場の方のお話は、具体的で分かり易かったです。私達は広く浅く知識は持っていても、現実に介護、施設、法律等と切羽詰らないと真剣に向き合い難いのが実際のところです。「子供達の迷惑になりたくないから、自分は施設に入るつもり。でも現

在私の母を施設にお願いしているが、心苦しい。」と発言された方がいました。現実問題と自分の気持ちが折りあい難いのでしょう。神様に「ご苦労さん！」と言われる日まで、どんな毎日を過ごすのか、自分の最後は選べないけど、日頃から家族といろいろなことをお喋りしておくことが必要なのかもしれません。

施設の職員の方が、「自分達は、最善を尽して利用者の方に向き合っています。利用者の方に感想を聞くことはないけれど、利用者の方が亡くなった後、家族の方が施設にボランティアで来て下さるようになった。これが答えかも。」とお話しされました。メディアの情報だけではなく、実際に動いて学んで見学して自分達の老後と向き合いたいです。今回の「女性の集い」開会礼拝では後藤牧師の力強いメッセージを頂きました。他教会の牧師の説教を聞くことができる。恵みです。



市ヶ谷教会 * 富井 いづみ

残された人生をどのように生きるのか

10月15日(土)東京教会にて開催された第4回女性の集いに於いて、4月に続いて「介護する側・される側」をテーマに2回目の学びの時がもたれました。講演して下さった特別養護老人ホームめぐみ園高橋睦施設長から東京老人ホーム設立の歴史を伺いました。1923年関東大震災罹災者救済の為、教会に託された施設として老人ホームと母子ホームがスタートし、戦後は法制度の改正によって名称の変更や事業の変更、拡大が次々と行われ現在の法人事業へと発展したことを知りました。

法人施設の理念は「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ25:40)という聖句に在り、ルーテル学院に有る手(腕)の無いキリスト像に象徴されるように、「私たちがキリストの手となって働く」という精神に在ることを知りました。日本中に沢山の介護施設が在り、大勢の介護従事者がいます。経験年数などにより多少の技量の違いはあっても「やり方」というのはそうそう違わぬ

い。「キリスト教式のオムツ交換の仕方」があるわけでは無い。しかし、その施設の理念がどこに在るかによってオムツ交換一つにしても違ってくる。とのお話には大変感銘致しました。

今回のテーマである「介護される側」とは、残された人生をどのように生きるかを選択する側。残されて人生をどう過ごすのか、たとえば在宅か施設かを決める側。延命治療についても意思表示する側。そして「ここなら(在宅でも施設でも)この人なら(家族でも介護従事者でも)お任せできる」と思えた人が「介護される人」となることを学びました。

最後に伊藤早奈牧師から東教区女性会に寄せられたメッセージを読み合わせ、先生がホームで過ごされているお一人お一人に対して「家族」として接し、一人一人の名前を呼び、目を合わせて挨拶をされていること、その方の人格を尊重し「看取り」の働きをされていることを知りました。先生の尊い働きに感謝し、先生のご健康を祈りつつ会を終了しました。

介護される側の実際と意義

東教区付牧師・伊藤早奈

*この度は、会場に伺うことはできませ
んが、このように文章での会への参加が許
されましたことを本当に感謝致します。ま
た、東教区の女性会の皆様お一人お一人の
祈りやお働きによってこの東京老人ホー
ムが支えられていることを感謝いたしま
す。私の出会ったほんの一瞬の出来事かも
しれませんが、その一瞬一瞬が神様から与
えられるかけがえのない「出会い」であるこ
とを皆様とぜひ分かち合いたいと思いま
す。私は介護する具体的な働きも介護され
ると言ふことも今はありません。ただ、お
一人お一人と共に在りたい「共におられる
神様をお伝えする者として用いられたい」
そのような思いを持ち働かせて頂いてお
ります。いくつかのポイント(言葉)をあげ
て文章にさせて頂きます。*

I 「私たちは家族です。」と、ある礼拝で牧
師が言われた言葉に改めてこの東京老人
ホームの「ホーム」の意味が深く心に響き
ました。追悼礼拝には多くのご遺族が参
加され、めぐみ園に居住されておられた
方々のご遺族もお集まりになりました。
ご主人やお母様の生前、訪問されておられ
た方々に自然に声を掛けて頂き、「お交わり
を頂きありがとうございました」と言葉や
気持ちをお伝えできたことが嬉しかった
です。東京老人ホームでも一人の人間の
最後をホームで迎える取り組みとして「看
とり」が数年前より積極的に行われるよう
になりました。

先日もある方のお別れ会に参加するこ
とが許されました。その方は私がこのホー
ムに働く前から長年お暮らしになられて
いた方でした。「看とり」の取り組みは「
本人の安心のため思っていた私は、ご遺
族が、お世話をしていた担当のワーカーさ
んと話している様子に触れ「あつ、ご本人

が支えられていることを感謝いたしま
す。私の出会ったほんの一瞬の出来事かも
しれませんが、その一瞬一瞬が神様から与
えられるかけがえのない「出会い」であるこ
とを皆様とぜひ分かち合いたいと思いま
す。私は介護する具体的な働きも介護され
ると言ふことも今はありません。ただ、お
一人お一人と共に在りたい「共におられる
神様をお伝えする者として用いられたい」
そのような思いを持ち働かせて頂いてお
ります。いくつかのポイント(言葉)をあげ
て文章にさせて頂きます。*

だけではないんだ」と気付かされました。
多分それはボランティアで関わって下
さっている方々も同じではないでしょう
が、「日本人はもちろん、ご家族も、お世話
された方が最後まで一人の方と関わられる
ということが施設の「看とり」の働きにあ
ることが感じられた出来事でした。
担当のワーカーさんとお話をされる「遺族
の言葉や表情からは感謝と安堵が感じられ
ました。また、担当のワーカーさんも最後
のお別れに立ち会つ喜びに近い達成感を持
たれているように感じました。神の家族で
ある、お一人お一人と共に生き抜くとい
うことは、いろいろなたちで残される人々
に思い出を残す生き方なのだと思います。
礼拝で牧師が「私たちは家族です。」と言
われた言葉の意味が私の心中に深く響いた
のは様々なかたちで神様に与えられる大
切なお一人お一人と共に生きた証が私の
心にもしっかりと刻まれているからな
だ、と改めて思わされ感謝でいっぱいにな
りました。このたくさんの感謝を持ちま
た神様に与えられるかけがえのない一瞬
に仕えて生きたいと思います。

II 「あなたにとつて今、一番優先される大
切なことは何ですか?」これは目の前の方
からの問い合わせであり、神様から私へと向けら
れた問い合わせもあります。あるとき、私は
「命」を選択させて頂きました。何を選択し
決断するかに答えはないと思います。しか
し、祈りを持ち決断するときには不思議な
安心感があります。これからさらに決断の
必要が増えてくるでしょう。でも、その時
の時、私は祈ることで自分に許されています
ことなどを忘れずに、そしてこのホームのお
一人お一人との出会いを通して神様が私
に語りかけて下さるメッセージや祈りに
生かされていきたいと思わされます。

III 「聖書のみ言(ことば)から聴く」といつ
も言いながら、自分自身が「」の聖書の言
葉はいつも読んでいる言葉だななんて読
み流してしまったことがあります。その
時々のお一人お一人から与えられる一
々の言葉は今も生きて私たちに語りかけられ
ています。聖書のみ言が語られました。「疲れた者
お一人へと神様に用いられる者として働
くことをも求められているのではないか
と思われます。それが、「聖書のみ言から
聴く」「聖書のみ言に導かれる」ということ
であり、一人一人と共にある主を伝えてい
くことなのだと感じています。そして今、
神様に感謝して生きる毎日です。

私は最近(多分、病気の診断を受けてか
ら)昔より頑張れなくなったりした。自分
の不自由さを自覚することが多くなり
ました。それで、明日やることのためには
今日は、身体を休めるとか、一日でやること
は一つにするなど「私は今、何が大切なの
か」選択と決断が必要となっていました。
例えば、会議がある日に危篤の方がいらつ
しゃる。社会的責任と命の大切さ、両方を
體力、時間、氣力があれば両方に十分力を残
注ぎたいと思います。でも十分な余裕が残
されていない時に人は迷います。私も同じ
でした。

「あなたにとつて今、一番優先される大
切なことは何ですか?」これは目の前の方
からの問い合わせであり、神様から私へと向けら
れた問い合わせもあります。あるとき、私は
「命」を選択させて頂きました。何を選択し
決断するかに答えはないと思います。しか
し、祈りを持ち決断するときには不思議な
安心感があります。これからさらに決断の
必要が増えてくるでしょう。でも、その時
の時、私は祈ることで自分に許されています
ことなどを忘れずに、そしてこのホームのお
一人お一人との出会いを通して神様が私
に語りかけて下さるメッセージや祈りに
生かされていきたいと思わされます。

一人お一人との出会いを通して神様が私
に語りかけて下さるメッセージや祈りに
生かされていきたいと思わされます。

私はこの老人ホームで「」本人やご家族
の希望でお一人お一人の居室へ伺い、聖
書の朗読や贊美、祈りの時などを持たせて
頂いています。お読みする聖書の箇所は、
その日の朝ホームで礼拝される聖書日課

や詩編や「」本人がお好きな箇所などが多
いです。

ある日、私が伺つたお部屋で寝ていらし
た方の横で、先ほど書きました聖書のみ言
を読んだ後でした。「ありがとうございます」と言葉が
聞こえました。どのお部屋の方もほと
んど反応がなく、目を開じたまま僅かに表
情が変化する状態に慣れてしまつた私は
驚きと喜びでいっぱいでした。

他の方のお部屋に伺い、いつものように
挨拶をしてお部屋の戸を開めた後、なぜ
が「聖書を読もう」と一度も読んだことの
ない方のベッド横に戻り、先ほどの聖書の
み言をお読みしました。その時「うおー」と
叫んだその方の声は私には「ありがとう」
と聞こえました。それから一日後、その方
は救急車で運ばれた病院でお亡くなりに
なりました。「聖書のみ言から聴く」「聖書
のみ言に導かれる」経験はたくさんあると
思いますが、そのことに心を留めた経験は
少ないのかもしれません。

最近、私自身体調の調整が思うようにい
かず、教会へ行かれない現実が多くなり
「聖書のみ言から聴く」「聖書のみ言に導か
れる」ということが本当に必要だと実感していま
す。それが教会であつてもそこではなくて
も、私たちが祈りながら、目の前のお一人
お一人へと神様に用いられる者として働
くことをも求められているのではないか
と思われます。それが、「聖書のみ言から
聴く」「聖書のみ言に導かれる」ということ
であり、一人一人と共にある主を伝えてい
くことなのだと感じています。そして今、
神様に感謝して生きる毎日です。

❖東京老人ホームを訪問して

保谷教会 * 三五 康子

11月19日(土)午後1時半から2時間は毎年予定される東教区女性会、東京老人ホーム訪問の日でした。5ヶ所に分けられたテーブルの空いた席に座るとすぐに、役員さんの進行によりプログラムが開始されました。始めに、高橋睦施設長の挨拶。次は作業開始。新聞紙を折り畳み大きなビニール袋に入れて平たくする。という誰にでも出来る作業をしました。各テーブルから、高橋施設長がせっせと一ヶ所に運ぶ流れ作業で、あつという間に山のようになりました。後半の時間は、隣の部屋で私たちを待つ入居者の方々と合流し、老いも若きも楽しい一時です。ほとんどの生活がホームの中だけの皆さまは、外部からの空気、風を運び入れる私たちをニコニコ顔で迎え入れてくださいます。人々、空いた椅子に座り、お隣さんに挨拶。始めに中山康子姉と磯村直美姉の童謡。手遊び歌。途中、磯村姉の二歳の子どもさんも加わり、チャリンチャリンとピアノに合わせて美しい音を作り出し。あまりの愛らしさに皆大喜びでした。続いて中山姉のリードで手遊び歌を。「ずいずいすこぼしごまみそずい…」。みなさまはこの遊びをご存知でしょうか。80、90歳の方々が幼い時にこの遊びをした方々は懐かしく大変喜んでくださいました。しかし、若い役員さんの中には、この遊びが初めてで、入居者の方に教わる場面もありました。次には青村ゆかり姉(歌)と伊藤公子姉(ピアノ)の手拍子に合わせて乗りの良いリズミカルなカントリーソング

とダンス♪ 楽しい時間は早く過ぎ、終了の3時半になりました。八木会長が来年も訪問することをみなさまに約束して大大感謝の内に解散いたしました。尚、前半の高橋施設長の挨拶の後に、10月15日「女性の集い」での席上献金からの志を、八木会長より東京老人ホームに捧げられました。東教区女性会では、東京老人ホームでのボランティアを常時受け付けております。1ヶ月に1回、2時間でも結構ですから、生活の中の予定に加えていただけたらと思います。詳しく知りたい方、質問のある方は、ボランティア世話人会のむさしの教会:大森姉か教区女性会役員にご連絡ください。



シャロンの花 を訪ねて Vol.4

受け継がれて…各自のタラントを生かしつつ

市川教会 * 市川 直美

市川教会の会堂は平成24年10月耐震構造に改築され、その後入口より玄関前も整備されました。緩やかなスロープに手すりも付き歩きやすくなったとの会員の声が聞こえています。

女性の集いは教会創立当初(昭和30年)より常にバザー、愛餐会、生産品の販売など現在と変わらぬ教会の力として受け継がれています。かつては、大雨により真間川から上がってきた泥を皆で掻き出したこともあったと聞きました。力仕事も食事作りも力の出し方は人さまざまですが、協力することで思わぬ知恵を頂く事も有り楽しみが多々あります。各自のタラントを生かしつつ交わりを深めています。

聖書の学びは毎月第3聖日礼拝後に行います。連盟会報の聖書研究から読み合い、中島牧師より奨励を頂きます。その後は報告や情報交換をします。先日は教会に災害の備えが必要であるとのテーマの基に備蓄品の一覧表を見ながら必需品や工夫の仕方、置き場所など話し合いました。教会員の安心ばかりではなく地域の皆さんにとっても教会に備蓄があるという安心を共有したいと話し合いました。

これからも会員皆で元気に活動していきたいと思います。



教会の力の源・弾ける笑顔*
聖書研究 & 貴重な情報交換の時*

❖ 身近に感じて、意味のある一日

東京老人ホーム訪問は私にとって2回目となります。東教区女性会の大事なプログラムとの認識を以て参加させていただきました。もちろん、年齢的にもホームが自身に近づいて感じられる、という認識も併せ持つての参加です。

まずはお手伝いです。お手伝いというのはおこがましい限りですが、ビニールゴミ袋の中に新聞紙を入れる、という作業をしながら常時奉仕をされている皆様のお話をうかがいました。東京老人ホームはたくさんのスタッフで運営されていますが、それでも人手はまだまだ必要とのお話で、何もしたことの無い私は少々良心の痛む思いです。入浴後の着替え(靴下など)手伝いを求めていたとのことでした。

入居の皆様とのお楽しみは、歌のプログラムです。中でもお母さんの澄んだ歌声に合わせて坊やがチャイムを鳴らすのは感動的でした。そして中山さんの明るく優しい指導でいっしょに童謡を振り付きで歌います。最後は昨年大好評だったカントリーミュージックをまた聞かせていただくことができました。どのプログラムも入居の皆様と私たち訪問者のはたしてどちらが楽しんだのでしょうか?申し訳ない限りです。

東京老人ホームはルーテル教会と深い繋がりのある施設で、年に1回の訪問を受け入れてくださるホームの皆様に感謝いたします。そして、訪問する私たちにとっては本当に意義

田園調布教会 * 岸田 多希子

のあることです。この施設を身近に感じること、入居の皆様に何かできることは、と探すこと、そしてボランティアの皆様の働きを知ること、とても意味のある一日でした。

入居の皆様の穏やかな毎日のために、スタッフ、ボランティアのみなさまの働きのためにと祈らずにはいられません。



シャロンの花 を訪ねて Vol.4

恵みを奇跡のように繋ぐ…縁の下の力持ち

♪みかんの花が咲いている♪この曲にゆかりある温暖な気候の湯河原町に、創立61年のわたしたちの湯河原教会があります。平均礼拝出席数20名前後、女性会定例会への平均出席者数7名前後と言う小さな教会ではありますが、神様の恵みを奇跡のようにいつも、体験させていただいております。当教会の礼拝には、高齢者が喜んで出席されています。(最高齢107歳)。教会活動と女性会活動の混在した紹介になりますが、春にはイースターコンサート、冬にはクリスマスチャリティーコンサート(17回目)を開催し、それぞれの席上献金を国連WFPと地域の福祉団体に贈っています。難民支援として古着を送り、毎年神学校日を覚えて手芸品作りをし、震災支援でみかんを送り続けています。尚、夏には他の団体と



みんなの笑顔が咲いている*



み言葉の学びから広がる奉仕の輪*

湯河原教会 * 女性会一同

の共催で、平和を想う集いも開いています。小さな教会だからこそ、神様は憐れんでくださり、一人一人に幾重にも賜物を与えて下さって、それを用いよとおっしゃっているのだと信じます。奉仕の人数(量)も大切な要素であるかもしれませんのが、各人が奉仕を通して知る信仰(質)を教えられています。月1回の定例会で、岡村博雅牧師のご指導の下、共にみ言葉の学びをし、活動しています。その様子を女性会便りとして発行し、定例会に出席できない人や、男性会員にも読んでいただいています。そのたの活動内容を一言で表現しますと、頼りないながらも「教会の縁の下の力持ち」かしらと自負しつつ頑張っております。



創立61年幾重にも繋ぐ賜物*

❖ サバ神学校支援への思い ● ● ● ● ●

藤が丘教会 * 星野 淑江

もう24年も前になるのですが、日本福音ルーテル教会は宣教100年(1993年)を迎えるに当たり「伝道する教会」なることを再確認し「さあ、出て行こう」のスローガンのもとに、教会あげての100年事業が計画され、実施されました。当時、女性会連盟会長であられた石原京子さんは、100年記念事業推進委員会の副委員長の任にあり、女性会連盟も100年間海外の諸教会からの受けた恵みに応えて、「さあ、出て行こう-アジアへ」と的を絞り、まずアメリカのルーテル教会世界宣教室から資料を手に入れ、加えてルーテル学院大学の徳善義和教授、清重学長にはサバ神学校長に会って頂き、その可能性を打診して頂きました。両先生のこうしたご協力無しにはマレーシア・バーゼル・キリスト教会(BCCM)との宣教協力はスムーズに行かなかつたと思います。

内外の多くの方々から、お祈りと励ましを頂いた事業です。連盟会員が一人年600円を献げてくださるなら、毎年サバ神学校の学生2名に奨学金を贈ることができると信じて、このプロジェクトはスタートしました。こうして1993年～2003年には1,000万円が送金され、少し古い資料になりますが、31名の神学生を支えてきました。サバ神学校トウ校長は連盟からの支援金受給生第一号となるイエン神学生(現在中心的牧師)と共に来日され、幾つかの教会を回り、感謝と現状報告をしてください、顔と顔とを合わせての交流も実現しました。

更に、東日本大震災の折、熊本地震の折りに、BCCMは率先

して多額の献金を寄せてくださいました。

一方、日本の教会員の高齢化、連盟の活動から身を引かれる教会の出現などから、この支援活動の継続の可否を問う議論も連盟総会ごとに議案に上がっていることも事実です。

米国の教会が、フィンランドの教会がドイツの教会(プランシュバイク)が一世紀を超えて今なお日本の教会へ宣教師を送り、財的支援を続けていてくださる「息の長い宣教協力」の姿に学び、時と状況によって支援の中には変化があったとしても、「宣教する教会」「出て行く教会」であり続けたいと、ひたすら願う者です。神のみ業には終わりはありません。



* ルーテル学院大学・神学校入学式を終えて@神代植物園 (P7 参照)

シャロンの花 を訪ねて Vol.4

その日できる働きの恵み…55年目の春の献堂式を覚えて

小岩教会 * 中山 摩利子

今日は、クリスマス礼拝の中で洗礼式が行われました。82才になられる木戸百合子姉が、お嬢さんと、小学生のお孫さんに付き添われて受洗なさいました。教会員全員にとって、これ程嬉しくすばらしいクリスマスの贈り物はありません。礼拝堂新築工事のため、保育園の一室を使っての礼拝でしたが、狭い部屋が光り輝いているようでした。この礼拝には、102才の山本つる子姉と、94才の江口瑞子姉がお元気なお顔を見せて下さっていました。日曜礼拝に出席することもまゝならない方々が年々多くなっている現状の中で、今日のクリスマス礼拝は、忘れられない感謝の日になるのではないかでしょうか。

婦人の会と申しましても、極めて少ない人数でささやかな奉仕をさせていただいておりますが、改めて毎日曜礼拝を振り返ってみると、小岩教会は今、何をするのも教会員全員が協力して、一緒に働いていると思うのです。礼拝の後、引き続き子ども礼拝がもたれるのですが、その場にも大人の方も参加していますし、一方、同時に部屋の後方でお茶の用意をしている方々の中に男の方もいらっしゃいます。どなたも、ご自分がその日できる働きの仕方で参加していると言えると思います。この原稿を書くにあたりまして、小岩教会の歩みをたどりながら「1962年3月18日(日)午後2時30分:献堂式」の写真を感慨深い思いで見ています。私たちは今、2017年春の「献堂式」を目指して、感謝の気持ちを持ち教会員全員、なお一層協力していきたいと思います。

忘れられないクリスマス礼拝*



親子三代へ受継がれる贈り物*

❖ Interview of Winds From Asia～ ～アジアの兄弟姉妹と共に～



サバ神学校、台湾ルーテル教会のお二人&
石居基夫ルーテル学院大学教授・神学校校長

Rev.Chung Song Mee Ph.D:サバ神学校副学長とDr.Alicia Lee Ph.D:台湾ルーテル教会神学教育センター教職お二人が来日されて、ルーテル学院大学・神学校の入学式に出席されました。良き機会と思い石居先生へインタビューをお願いしたところ、快諾してくださりこの企画が実現しました。ご協力に深く感謝いたします

■Rev.Chung Song Mee Ph.D:サバ神学校副学長

①サバ神学校の2017年現在の状況(学生数、学生の内訳ほか)は

フルタイムの学生は78人、パートタイムの学生は約200人おります。

②サバ神学校のビジョン、課題について

現在は、海外からの学生がいろいろなかたちで学べるように、集中した授業形態で修士の学びが出来るようなプログラムを考えています。

③日本福音ルーテル教会と東教区女性会連盟/女性会連盟への希望は

奨学金を設けていただいているのは、貧しい中から学びをしたい学生にとって、本当に大きな助けになっています。このご支援を継続してただけることは、本当に感謝で嬉しいことです。

④日本ルーテル神学校とサバ神学校の神学生の交流の計画は

現在は特に企画はないけれども、近い将来には互いの交流をもち、交換留学なども含めていろいろな交わりが出来るとよいと考えています。

⑤メッセージをいただけますか

奨学金をいただけることは本当に感謝です。そして何にも代えがたいことは、私たちのために祈っていただいていることです。これが大きな支えとなっておりますことに心から感謝しています。今後はもっと、お互いの教会のことを分かち合えるように、交流を深めたいです。日本の神学校からもぜひ教えに来ていただきたいと思います。

■Dr.Alicia Lee Ph.D:台湾ルーテル教会神学教育センター教職

①台湾ルーテル教会の現状と課題は

いま、台湾には宣教師胎が異なる6つのルーテル教会があります。LWFを通じて今はさまざまな交流と協力があります。これがさらに広がっていくことは、台湾での宣教ということに大きな力になると思います。

②日本の教会は少子高齢化が顕著化しています。台湾の現状は?打開策のご提案などもありましたら

少子化もそうだけれど、若い人たちが教会に本当に少なくなっているのは、日本と同じような状況だと思います。

ただ、6つあるルーテル教会の中で、台湾ルーテル教会はもっと若者たちが集まっている教会となっています。それは、学生や青年層にさまざまなアクティビティがあり、活発に活動をしているからだと思います。他の教会にはそれがするのが現状です。特に学生センターを各地にもっていることは、非常に大きな力になっています。若い人が活動できる場所と企画を考え実践していくことが鍵になっていると思います。

③今後の台湾・日本のクリスチヤン間の交流、理解、協働は

言葉-コミュニケーションの問題はありますが、それは、誰かがきっかけを作ったり架け橋になると良いと思います。そういうたつの交流のプログラムをぜひ考案していきたいと思います。

シャロンの花 を訪ねて Vol.4

地域に開かれた教会を目指して

松本教会 * 谷口 和恵

日本地図では丁度真ん中辺りに位置する北アルプスのふもとの「松本平」に私達の教会はあります。あと数年で伝道開始から60年を迎えようとしています。この年月、様々な女性たちが教会での働きに多くの奉仕をされてきました。中でも現在まで数十年に亘り続いている老人施設「豊岳荘」での奉仕は特筆すべきものです。

さて、どちらの教会でもそうであるように、私達の教会も実質的な働きを女性会が担っていると言っても過言ではありません。特に地域に開かれた教会を目標としてここ数年、大体月1回で開催している「ルターナイツinまつもと」や「昼カフェ & 手仕事会」は定着してきました。どちらの会も教会を訪れたことの無い方々が毎回喜んで来てくださるのは私達にとっても大きな喜びです。礼拝への参加にすぐには結びつかなくても、その場に神様が共にいてくださり祝福してくださっているのを実感できる一時となっています。また教会学校の折々の行事においても女性会が力を合わせ、子どもたちが神様に出会う場となるよう祈りつつ準備をしています。そして月1回の女性会での聖書の学びや宗教改革500年の記念事業として出版された「マルティン・ルター:徳善義和著」や「エンキリディオン小教理問答」の読み合わせを通して、私達の信仰の礎となるルターの教えについて学ぶ機会も設けています。

松本教会は小さな群れですが、これからも地方より元気を発信していけたらと思います。



清々しく可愛らしい教会堂*
愛と喜びの発信基地*

❖ 互酬を超えて 2017.3.10 卒業式



*ルーテル学院大学学長 江藤 直純

あなたがたに新しい摺を与える。互いに愛し合いなさい。
私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
ヨハネ13:34

1. ついにこの日がやってきました。業成り、次のステップへと旅立つ日です。心からおめでとうと申し上げます。

振り返れば、高校と大学では学習の仕方の違いに戸惑った人も少なくないでしょう。履修登録も自分でしなければならないし、実習先、研修先では否応なく苦手なタイプの人とも接しなければならないし、期末試験だけでなく社会福祉士や精神保健福祉士や臨床心理士になるための試験も牧師になるための試験もありました。卒業論文や修士論文、博士論文がどれほど大変だったことはわたしたちも経験者ですから十分理解できます。それに働きながらということも加われば、よくぞここまで来たと思うでしょう。

それらの過程で、自らの適性への自信や抱いていた使命感が揺すぶられ、この道をこのまま進み続けてよいのかと疑問が生じ、自らを省み、方向転換をすべきかと悩んだ人もいたでしょう。周囲の人たちも知っている苦しみもあったでしょうが、人知れず自分だけで悶々とした経験を味わった人もいたことでしょう。それらを乗り越えて、ついにこの日に至ったのです。だからこそ、おめでとうと申し上げたいのです。

また、教職員のなかにもこの卒業式が現役としては最後になる方たちもいます。感慨深くこの席にいらっしゃることと推察します。

2. 梅は今を盛りと美しく咲いています。桜はあと2週間ほど待たなければなりません。でも、やがてキャンパスの中は満開の桜が咲き誇ります。

卒業式には間に合わなくても、入学式には桜はなくてはならないものです。みなさんも入学式の時を思い出でましょう。

昨年の2月にわたしはフィリピンを訪問しました。首都マニラとバギオですが、そのとき、日本の春の風物詩として桜の美しさが話題になったときに、わたしは、「フィリピンで桜が満開になるのはいつごろですか」と尋ねました。日本よりずっと南なので、数週間か一ヶ月が開花が早いだろうと思いながら質問をしたのです。そうしたら、答えは全く思いがけないものでした。「フィリピンでは桜は咲きませんよ」というものでした。これには驚きました。「えっ、なぜ?」という問い合わせが口にのぼりました。

みなさんは、どう考えますか。何故だと思いますか。教えてもらったその答えは、「フィリピンは暖かくて、冬がないから」ということでした。桜はあの冬の寒さがあるからこそ、その後に春の暖かい季節がやってきたら、それこそ満を持して開花し、見事な満開の桜となって見る者を喜ばせることができるというのです。

冬の厳しい寒さがあるからこそ、春の美しい開花がある。これはひとり桜にだけ当てはまるではなく、いわば人生の真理ですね。わたしたちの人生は順風満帆ばかりではありません。楽しいこともあれば辛いことも少なからずあります。寒い冬の時期は必ず来るし、場合によっては寒い季節が長く続きます。

日本はこの6年間の間に、かつてなかった大規模な地震に3度も襲われ

*P9へ続く…



シャロンの花 を訪ねて Vol.4

女子力を次の世代に繋ぎたいと願いつつ

大森教会 * 山中 千穂子

1951年スオミノシッドから派遣された宣教師により大森教会は甲府教会と共に福音宣教の種が蒔かれた歴史に始まります。かつては、大森山王の小高い丘の上に建てられたどこかアメリカの香りがする会堂も、時の移り変わりとともに様変わりしましたが、教会の正面に掲げられた聖句「永遠の命を得」の看板は引き継がれ教会の歴史を刻みながら今に至っています。当時宣教師館は、近くの奥様方が集い宣教師夫人を中心に編み物・聖書の勉強と楽しく過ごしていて、これが今の女性会の原点かと思います。

さて、現在の女性会は、会員18名・第三日曜日礼拝後、定例会を開催し、聖研にはじまり、活動報告・議案事項等の話し合をします。愛餐会の支度・礼拝堂のオルガンカバーや座布団の作成等女性目線での奉仕活動も行っています。

年1度、女性会が主催するガレージセールは、毎年心待ちにするファンの方々もいらっしゃって地域の皆様に好評で、準備に力の入るイベントです。昨年は初めて手作り「おやき」に挑戦し販売したところ大好評、今年も作りましょうと話し合ったところです。他方、当女性会も御多分にもれず働き手の高齢化により、運営の難しさに直面していますが、背伸びせず、常に奉仕できる体勢を心がけて 事ある時は女子力を発揮しようと努めています。このタスキを途絶えさせずに次の世代へと渡していくと願っております。



聖研に始まり、種々の企画立案も*



大森山王の丘で、今日も女子力に磨きをかけて*



多くの思いと共に卒業の時。これから羽ばたく期待を胸に…全てに感謝*



ました。歳月が経ち、時々思い出す程度になっているかもしれません、津波や土砂崩れ、放射能汚染のために故郷に住めなくなり、未だ仮設住宅住まいを強いられている方たちも少なからずいらっしゃいます。皆さんの中にも、生まれながらに、あるいは人生の途中で、心身に困難を覚えるようになった人もいるでしょう。愛する人との死別や生別を経験しなければならなかった人も中にはいます。努力しても努力しても人間関係が上手くいかず、歯車が噛み合っていない思いに苦しんだ人もいるでしょう。寒い冬の経験の中身は人それぞれ違っていても、誰もが何らかの意味での寒い冬を経験してきたことでしょう。

しかし、三つだけはっきりと分かっていることがあります。それは、寒い冬はたしかに襲ってきたことと、今は春が来て、自分に桜が咲いているということです。そして、もう一つ、寒い冬が来なかつたら、今の春は来ていないだろうということです。そして気づいているか否かは別として、冬の寒さに耐えている間、横から、後ろから、下から支えてくださった方々がいてくださったということです。その方々に感謝しましょう。家族もそうでしょうし、友人たちもそうでしょう。ルーテルの教職員もその支えの一つになっていたなら嬉しく思います。なにより、見えない神さまのお守りとお支えを信じて感謝します。

3.さて、春を迎えた皆さんはこれからどのような人生を過ごしますか。人生の内で職業生活はとても重要なものです。その職業を見つけるために、その職業に従事していく用意をするために、このルーテルでの歳月があったと言ってもいいでしょう。しかも、その職業生活は広い意味では「だれかの役に立つ」働きをする生活です。もう少し堅い言い方をするならば、「心と福祉と魂の専門職」、つまりは人間のさまざまな分野での、生きていくのになくてはならない、全人的なヒューマンケア、他者援助の専門職となって、「キリストの心を心として」「神と隣人に仕える」人生を送るのです。職業と直結する人も多くいるでしょうが、どの職業に就こうとも皆さんの生き方の根本は同じです。人生の根底に流れる生き方の備えと訓練をここルーテルで受けたのです。

そして、その生き方が目指すところは、自分一人が幸せになるのではなく、援助が必要な人たちも含めて、そこに住む人たちだれもが幸せになる、そんな社会を創造していくことです。心や体や生活のための援助や支えを差し出すことで、だれもが幸せな人生を送るように、それぞれが持てる賜物に応じて貢献する、それが期待されています。一方的にお世話する人とされる人という二つのグループに分かれるのではなく、だれもある意味では提供し、だれもある意味では受けるのです。もしも一方的な援助する・されるの関係だったら、それがどれほど善意から出発していても、受けるばかりの人にとっては、辛く苦しいのです。人間としてのプライドや尊厳が傷つけられるのです。

あるカトリックの神父さんが大阪の釜ヶ崎で働いていたときに経験した話が本に書いてありました。その神父さんは、その日の収入がなく、泊まるドヤと食べる物がなく、路上生活を余儀なくされている人たちを訪ねるた

め、その夜も夜回りに参加しました。おにぎりとみそ汁を配り、毛布が必要な人には毛布を貸していました。ところが、一人の日雇い労働者が神父さんに向かって、「キリスト教は人殺しや」と怒鳴ったそうです。みなさんはこのエピソードを聞いてどう思いますか。せっかくボランティアたちが親切のつもりで夜回りをして、おにぎりを配っているのに、恩知らずのおっさんだなと思いますか。私も最初この話を読んだ時は「えっ、何で？」

素直に、ありがとうございますと言って、もらえばいいのに」と思いました。ちょっとひねくれているかなという思いも過(よぎ)りました。たしかに、おにぎりとみそ汁でお腹は満たされ、体は温まるでしょう。しかし、それと同時に、その人の人間としてのプライドとか尊厳というものは傷つけられたのです。もしかしたら、その人にとっては、飢えに耐え、ぼろで寒さをしのいだほうが、心は寒くならなくてすんだのかもしれないです。善意に基づく親切のつもりの行為を、援助する側からではなく、される側に身を置いて考えると、異なる受け取り方が見えてくるのではないかでしょうか。

だから、一方的な関係ではなく、双方向的な関係、平たい言葉で言えば「お互いさま」と言い合える関係、それが大切ですね。英語で言うところのGive and takeがそうでしょう。日本語のお互いさま、堅い響きのする熟語を使えば、「互酬」あるいは「互酬性」という言葉がぴたりでしょう。互酬、お互いに報い合う、実にいい言葉です。そういう関係に入つておけば、そういう関係が実感できる間柄になっているならば、神父さんも「キリスト教は人殺しやなどと言われなくて済んだでしょう。その神父さんは優れた聖書学者でもあるのですが、かれは釜ヶ崎で経験したこと、気が付き、考えたことを本にして出した時に、最後の頁の著者紹介の欄に、自分のことを「釜ヶ崎で日雇い労働者の方々に聖書の読み方を習っている」と書きました。こうなれば、もはや一方通行でもなく、持てる者の上から目線でもなくなります。横並びの関係です。

みなさんがこれから様々な形でヒューマンケア、他者援助の職業に就いたり、そういう生き方をしたりするときに、「お互いさま」「互酬性」という言葉を心に刻んでおいて、生かしてくださればと思います。今日の卒業式のために与えられた聖書の言葉、ヨハネによる福音書13章でも「あなたがたも互いに愛し合いなさい」と主イエス・キリストは教えていらっしゃいます。

4.しかしながら、理想的とも思える「お互いさま」「互酬性」の関係の場合、ひとつだけ落とし穴があります。それは、わたしたちの関係はいつもいつも打てば響くような相互関係になっているかと言えば、必ずしもそうとは言えないということです。つまり、親切にしたからすぐに親切が返ってくるとはかぎりませんし、相手を理解したら、私も理解してもらえるという保証もありません。善意の行為に対してなにかしらの見返りがなかったら…。その見返りとはなにも金銭的なことには限りません。笑顔で微笑むだけでもいい。それで「ありがとう」という気持ちが伝わってくると、それだけで精神的に満たされ豊かな気持ちにもなります。それだけでもう十分なのです。しかし、もし、その笑顔が返ってこなかったとしたら、「お互いさま」「互酬性」の関係が崩れたら、そのあとのわたしの善意の行為は続きにくくなるのです。

*P10へ続く…

*P9から続く…

「マイナスのお互いさま」になることだってあります。そういうときこそ、先ほどの主イエス・キリストの教えを思い出してください。「あなたがたに新しい撃を与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」。ここで二回繰り返して「互いに愛し合いなさい」と仰っています。しかし、それだけではありません。「わたしがあなたがたを愛したように」という言葉が「互いに愛し合いなさい」の前に語られているのです。

「私がニキリストが愛したように」、それは「お互いさま」でもなく「互酬性」でもなく、報いを、見返りを望まないで、つまり見返りがあってもなくても注ぎだす愛です。相手を大切にし、相手を生かすための愛です。でも、上から目線にならないように、自己満足にならないように、どこまでも「相手のための愛」「仕える愛」です。

ヨハネの手紙には、よく似た表現で「わたしたちも互いに愛し合うべきです」と勧めていますが、そこでは、この勧めの前に「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから」というくだりがあって、その上で「私たちも互いに愛し合おう」と呼びかけているのです。神が最も大切な御子イエス・キリストをくださったのですから、あなたは十分に愛されているのです。だから、見返りがあるとか無いとかといったことに拘らずに、相手のために愛するエネルギーは既に与えられているのですよ、と

聖書は語っているのです。自分が愛されている人はだれかを愛する力を既に与えられているのです。大切にされた経験を持つ人は他者を大切にすることができるのです。

家族や友人、教職員、なにより見えない神さまに愛された、大切にされた経験を力にして、互いに愛し合う社会を、互いに尊重し合い、互いに大切にし合う社会を作っていくましょう。なにがあっても、ひるまず、くじけず、落ち込まず、前向きに、上を見上げながら人生を歩んでいきましょう。もちろん冬の寒さも経験するでしょう。でもそれは春に桜を咲かすためのなくてはならない時として受け止めて、希望を持って進んでいきましょう。

このチャペルの東側、大芝生の遊歩道沿いに、本学のミッションの原点である宗教改革者マルティン・ルーテル、ルターの言葉が刻まれたモニュメントがあります。その言葉を鼻向けに送ります。「自分のためではなく隣のために生きて仕える生に神の祝福があるように」。「自分のためではなく隣のために生きて仕える生に神の祝福があるように」。ご卒業、おめでとう。アーメン

*卒業式での“贈ることば”に感銘を受けたことをお話をしたところ、江藤先生が会報への掲載を快諾してくださいました。深く感謝いたします。

❖NCC世界祈祷日 フィリピンからのメッセージ 「わたしはあなたに不当なことをしているか？」

世界祈祷日は多様なキリスト教の伝統を共有するキリスト者女性により、1877年にアメリカの女性たちが移住者や抑圧されている人たちを覚えて始まりました。2度の世界大戦の経験から、地球規模の視野を持って和解と平和を求める祈りによる世界的な運動に発展しました。毎年3月第1金曜に、テーマに沿って祈り合い、世界的なネットワークを持つ女性たちと祈りと行動を続けています。世界祈祷日の献金は、世界祈祷日国際委員会(WDP)を通して式文作成国や国内外の女性たちの働きのために捧げられます。



今年の世界祈祷日礼拝は3月3日(金)日本基督教団富士見町教会において開催されました。礼拝の中で語られたのは…DV被害や性搾取の被害にあった多くのフィリピン女性と少女たち、国内外の移住労働者、災害によって深い傷を負った女性たちの物語です。これらの物語を聴いて、経済的不平等をもたらす強固な社会構造の罪深さにどうして気付かずにいられるでしょうか。わたしたちは今、罪を告白し、自分たちの責任を自覚し、公正への神の呼びかけに応えるよう招かれています。そして、ダグヤウ(dagyaw)という伝統的な耕作の方法が紹介されています。ダグヤウは互いの農場で働き、その収穫から平等に利益を得るという地域社会の仕組みで、持続可能農業のために有機栽培農家でよく用いられています。これがコミュニティを作り上げ、持続させるための良い慣習で、互いに寄り添う気持ちや思いやりを実現するものです。もしかすると、“わたしはあなたに不当なことをしているか?”という問いかけに対するヒントがここにあるかもしれません。

ロザン・オリヴェイラ世界祈祷日国際委員会主事

～(2017年日本語式文 キリスト教協議会女性委員会 世界祈祷日日本式文編集委員会)～より

2018年はスリナムからのメッセージ

日本福音ルーテル教会が担当します



世界中で、日本国内の各所で開催される世界祈祷日礼拝にあなたもぜひ一緒に参加しませんか。

毎年世界各国からのリレー・メッセージによる式文を通して、その国の現状や女性や子どもたちの課題をリアルに知り感じることができます。それは遠い異国の出来事ではなく、私たちの身近なことと照らし合わせてみると、共通点に気付かされることも多くあります。物理的に距離があっても心と気持ちは繋がることができる…そして相手を思い、祈り合える貴重な時もあります。今年は救世軍の姉妹方が担当してくださいました。来年は“スリナム共和国からのメッセージ”を受けて日本福音ルーテル教会が担当の予定です。どうぞ覚えてお祈りください。

❖ 監査報告【23期東教区女性会会計 2016年度決算・2017年度予算案】

2016年度（2016年1月1日～12月31日）東教区女性会会計決算、2017年度予算について監査結果をご報告いたします。
みなさまのお祈りとお支えの内に、2016年度の教区女性会会計が守られましたことを深く感謝申し上げます。

1. 監査日時：2017年2月10日（金）13時30分～15時00分
2. むさしの教会二階第一集会室
3. 監査人：立石 節子婦（第23回教区女性会総会選出）、大牧 正子婦（第23回教区女性会総会選出）
4. 立会人：岸田 多希子（教区女性会会計）、八木 久美（教区女性会会长）

東教区女性会

収支決算・予算(案)

23期

2016年度決算/2017年度予算（案）

単位：円

| 費 目 | 2016年度 | | 2017年度 | 2016年内訳 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|--|
| | 予 算 | 決 算 | 予 算（案） | |
| 東教区会費 | 588,000 | 579,600 | 588,000 | 1,200円×494人 |
| 教区便り購読費 | 20,000 | 19,700 | 20,000 | 100×197部 |
| 教区活動支援献金 | 250,000 | 248,736 | 250,000 | 席上117,236円 21教会2個人 163,500円 |
| 感謝献金 | 50,000 | 49,500 | 50,000 | 10教会 65,400円 |
| コーヒーショップ | 60,000 | 216,709 | 60,000 | |
| 入雑収入 | 1,000 | 104 | 1,000 | 普通預金利子・定額利子 |
| 用いたまえ愛の主よ基金 | | | 500,000 | |
| 小計 | 969,000 | 1,114,349 | 1,469,000 | |
| 前年度繰越金 | 1,133,624 | 1,133,624 | 975,580 | |
| 取入合計 | 2,102,624 | 2,247,973 | 2,444,580 | |
| 教区便り | 60,000 | 85,537 | 90,000 | 印刷・発送等 |
| 会議費 | 100,000 | 61,059 | 70,000 | 説教・オルガニスト等 |
| 交通費 | 240,000 | 188,808 | 200,000 | 役員会・会長会 |
| 教区交流費 | 120,000 | 147,232 | 150,000 | 遠距離教会交通費 |
| 地区活動費 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 甲信地区 |
| 次世代育成支援金 | 100,000 | 72,720 | 80,000 | TNG 神学生へ手帳 |
| 通信事務費 | 30,000 | 13,453 | 20,000 | 事務用品・郵便等 |
| 慶弔弔費 | 10,000 | 0 | 10,000 | |
| 予備費 | 10,000 | 0 | 10,000 | |
| 支援献金 | 200,000 | 504,709 | 200,000 | 東北・熊本・ベタニア・千葉ベタニア・ほしくずの会・ ・ブラジル・東京老人ホーム・神学校 |
| 連盟総大会積立金 | 100,000 | 100,000 | 18,200 | |
| 東教区総会積立金 | 50,000 | 50,000 | 39,503 | |
| コーヒーショップ | 10,000 | 16,651 | 10,000 | 材料費・包装費 |
| 雑費 | 5,000 | 2,224 | 5,000 | 振込手数料等 |
| 仮受金 | | 0 | | |
| 小計 | 1,065,000 | 1,272,393 | 932,703 | |
| 次年度繰越金 | 1,037,624 | 975,580 | 1,511,877 | |
| 支出合計 | 2,102,624 | 2,247,973 | 2,444,580 | |

| 支援献金 内訳 | |
|---------|---------|
| ほしくずの会 | 30,000 |
| 東京老人ホーム | 76,136 |
| ブラジル伝道 | 20,000 |
| ベタニア | 20,000 |
| 千葉ベタニア | 20,000 |
| 神学校① | 117,456 |
| 東日本 | 20,000 |
| 熊本 | 201,117 |
| 計 | 504,709 |

| 連盟送金 内訳 | |
|---------|-----------|
| 会費 | 1,255,800 |
| 会報購読 | 118,200 |
| 連盟支援 | 119,700 |
| 感謝献金 | 125,200 |
| サバ支援 | 245,100 |
| リーストコイン | 62,819 |
| ACWC | 700 |
| 計 | 1,927,519 |

①コーヒーショップ・ミニショップ

| | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 現金 | 80,543 | 次年度繰越金 | 975,580 |
| 通常郵便貯金 | 1,487,334 | 積立金残高 | 592,297 |
| | 1,567,877 | | 1,567,877 |

定額預金（旧）用いたまえ愛の主よ基金 500,000円

| 積立金会計 | 収入 | 支出 | 残高 |
|---------|---------|---------|---------|
| 連盟大会積立金 | 200,000 | | 200,000 |
| 宿泊費 | | 118,200 | 81,800 |
| 15年積立 | 100,000 | | |
| 16年積立 | 100,000 | | 281,800 |
| 教区総会積立金 | 300,000 | | |
| 総会費 | | 89,503 | 210,497 |
| 15年積立 | 50,000 | | |
| 16年積立 | 50,000 | | 310,497 |



☞ もっと知りたい…これからを共に、祈り、歩む…

[http://tngteens.hamazo.tv/ ← このサイトから神学校通信へ](http://tngteens.hamazo.tv/)



パイプオルガンのお披露目*

*神学校・神学生は今…

「神学校と神学生へのより良き理解」を深めるには何が必要か。

*介護される側の実際と意義…

東京老人ホームめぐみ園：高橋睦施設長の講演についてもっと知りたいとの声が寄せられています。次号にご期待ください。

「TNG次世代育成宣教プロジェクト」、「癒し」とは「介護に

ついて」「女性会って何?」「教会の今」etc.

みなさまからのいろいろなご意見をぜひお寄せください。
お待ちしています。

*身近なDVドメスティック・バイオレンス あなたは？わたしは？…

詳細は次号“第5回会長会＆女性の集い”リポートをご覧ください。

これからのお予定・ご案内

● 第5回東教区女性会 “会長会&女性の集い”

『身边にあるDV ドメスティック・バイオレンス
あなたは？わたしは？』講演とご案内

日時：2017年4月8日（土）10:30～15:30

会場：日本福音ルーテルむさしの教会

開会礼拝：浅野直樹Jr.牧師（むさしの教会牧師）

　召天された姉妹を憶えての祈り、各協力委員アピール

第2部：①アンケート回答(各個女性会)から見えてくる課題討議

②講演：小勝奈保子牧師(聖パウロ教会牧師・教区社会部長)

参加者と質疑応答

開会礼拝

*男性、若者、どなたも大歓迎です！

● 甲信地区女性の集い

日時：2017年6月10日（土）

会場：日本福音ルーテル松本教会地区センター

担当：長野教会・松本教会女性会

* 詳細は追ってご連絡します。

…2017年：今後の予定・宗教改革500年関連行事などは…
隨時ご案内いたします

おしらせ

シャロンの花だより掲載ご希望の案内・特集・紹介記事などが
ありましたらどうぞご連絡ください。
“女性の集い”や他の会合で取り上げほしいなど
ご希望の講演・学習会・詰合せ・活動などへの
ご意見・ご希望もお寄せください。



❖ 編・集・後・記 ❖

「シャロンの花だより」の担当になって2年。やつていて嬉しいのは、何と言っても、お願ひした原稿が届いた時です。書いてくださった方のお顔は知らないことが多いのですが、何か原稿の向こう側にみなさんの笑顔が見えるのです。これからもよろしくお願ひします。(K.H)

23期女性会の折り返し地点を過ぎた今春、主の守りとお導きに深く感謝します。宗教改革500年を迎える本年に生かされている不思議と恵みを味わい、新しい歌を主に向かって歌いながら歩みを進めることができますように祈りつつ。桜花、街路樹、野山の新緑に感謝！



東教区女性会会報 第90号(23期第4号) 2017年4月8日

発行人：日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会

発行者/編集：八木久美 編集：保坂和子